

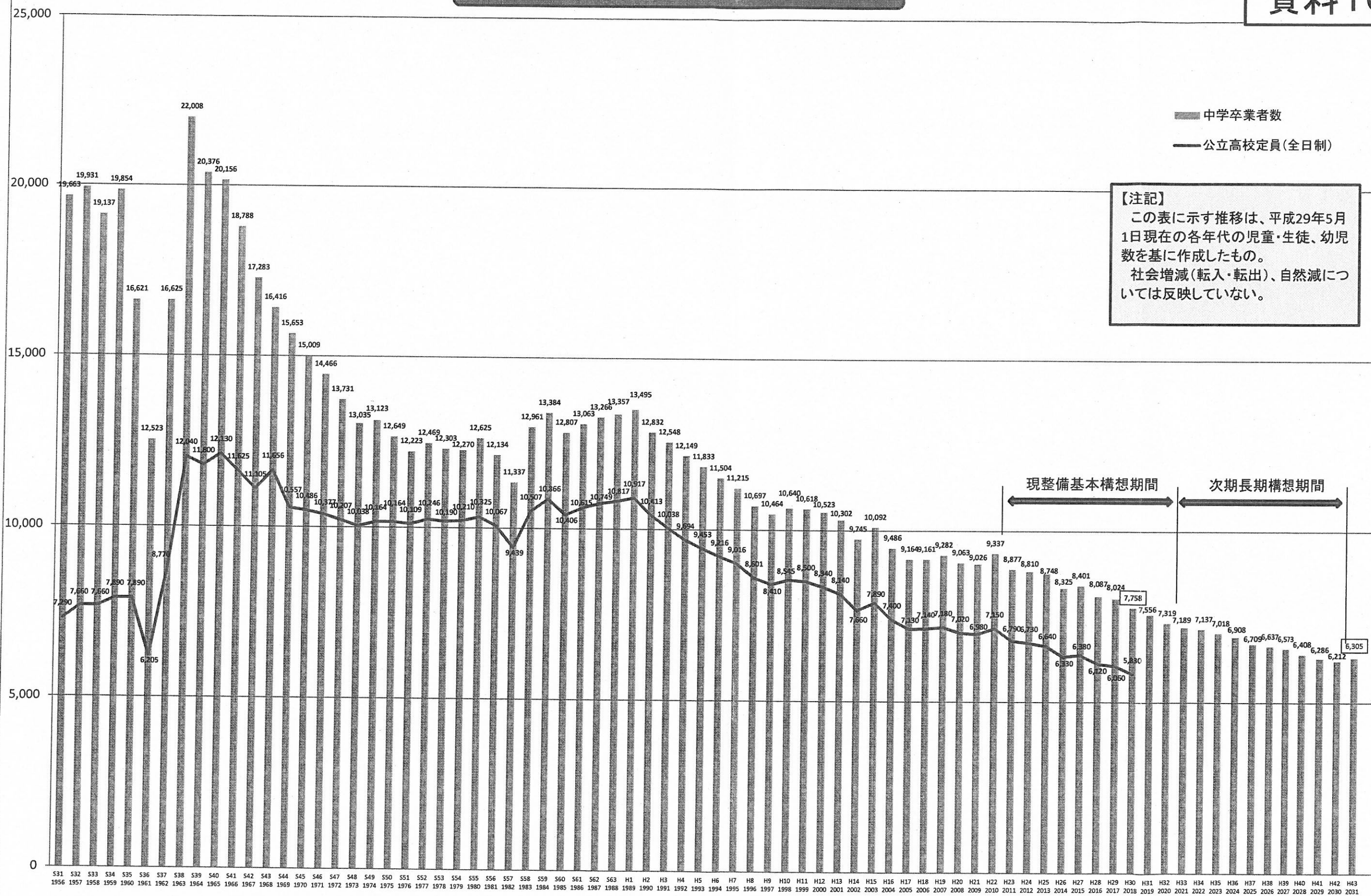
教育をめぐる社会・経済環境の変化

- 人口減少・少子高齢化の進行
- 社会・経済のグローバル化
- 産業・社会に変革をもたらすイノベーションの創出
- 災害への備え等の安全に対する意識の高まりや安全・安心の確保
- 地球温暖化への対応とエネルギー政策の転換

「ダイナミックやまなし総合計画」より

卒業生数・定員数の推移

資料10



小規模校化のメリット・デメリット

学校が小規模化（定員・生徒数が減少）した場合の影響については次のとおり。

メリット

デメリット

学習面

- ・ 生徒に目が届きやすい
- ・ きめ細かな教育が可能
- ・ 個々の個性や適性に合わせた教育が可能
- ・ 競争が緩やか
- ・ 教材・教具、施設の利用にゆとりがある
- ・ 学校行事等の際、生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい
- ・ 学校行事に必要な時間が短くなる（入退場、移動、集合、手洗い休憩など）

- ・ 教員数が減少し、進学対応含め、多彩な教育課程の設置が困難になる。
- ・ 習熟度別学習やグループ学習、進路別クラス編成が困難になる
- ・ 教科の専門教員の確保に難（理社など）
- ・ 進学実績が低下するおそれがある
- ・ 多様な出会いや考え方に触れることによる成長や切磋琢磨の機会が少なくなる
- ・ 運動会や学園祭など学校行事や集団教育活動に制約が生じる。活気がなくなる

生活・課外活動面

- ・ 生徒相互の人間関係が深まりやすい
- ・ 異学年間の交流が生まれやすい
- ・ チームスポーツでは控えに回ることが少なくなり活動しやすい場合もある

- ・ 学校の活力が減少する
- ・ 学級間の相互啓発がなされにくい
- ・ 運動部の選択に限界が生じる。特に人数を要する部活動に影響が大きい。
- ・ クラス替えのバリエーションが少なくなることから、人間関係や相互の評価等が固定化、序列化しやすい
- ・ 人間関係上の問題が発生した場合、クラス替えによる対応が難しい
- ・ 登下校時の安全指導等に支障が生じるおそれがある
- ・ 清掃時、一人当たりの範囲が広くなる

学校運営面

- ・ 教員間の意思の疎通や相互の連携が図りやすい
- ・ 学校が一体となって活動しやすい
- ・ 施設や設備の利用の調整が行いやすい

- ・ 教員一人当たりの校務分掌等が増す
- ・ 教職員同士の切磋琢磨の機会が少なくなる
- ・ 教員の出張や研修等の調整が難しくなる
- ・ 新任・若手教員の育成に支障がある
- ・ 子ども一人当たりの経費が大きくなる
- ・ 部活動や生徒会活動の経費が少なくなり、活動に制限や、費用負担が大きくなる
- ・ 学校規模以上に維持・保守経費が必要（余った施設の管理・活用）

その他

- ・ 大人数が苦手な生徒も進学しやすい
- ・ 保護者や地域社会との連携が図りやすい
- ・ 地域が学校を支援する体制を整えやすい
- ・ 災害時に生徒の把握がしやすい

- ・ PTA活動における保護者一人当たりの負担が増加する
- ・ 学校の伝統を継承するのが難しくなる可能性がある
- ・ 校外学習等の各種活動、修学旅行、卒業アルバムなどで個人の費用負担が大きくなる

※ 文部科学省及び他自治体資料を参考に作成